

## <令和6年度 研究事業報告>

### たしかなつながりを ～「確かな学び」の実現を図るために～

教育センターでは、9名の研究員が3つの部会に分かれ、各学校の教育活動に役立つ基礎的・実践的な研究を行いました。

#### 【研究主題】

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の構築  
～すべての子どもの可能性を引き出す複線型の授業づくりを目指して～（1／3年次）

#### 【研究内容】「複線型の授業づくり」

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 1 単元を通した評価規準の設定    | 2 指導と評価の一体化            |
| 3 1人1台端末を活用した授業づくり | 4 クラウドおよび共同編集の活用       |
| 5 ねらいを踏まえた学習課題の提示  | 6 各教科等の特質を踏まえた学習の過程の工夫 |

### 1 言語能力育成部会

#### (1) 研究成果

- ドキュメントに下書きをさせてから、スプレッドシートに意見を貼り付けることで、操作ミスを減少させることができるようになるなど、授業に活用するアプリケーションを精選することで、教師も子どもも負担なく課題解決を行うことができた。（内容3）
- 単元全体の学習内容の定着や深い学びを目指して、学習改善につなげる評価と評定に用いる評価を意図的・計画的に位置付けていく必要がある。（内容2）

#### (2) 担当研究員（3名）

### 2 情報活用能力育成部会

#### (1) 研究成果

- 単元を通して各時間の評価規準を設定し、複線型授業の定着を目指したことから、授業公開時においても、子どもが自ら協働の仕方を選ぶ場面が見られ、子どもの主体的な学びや見通しをもった授業づくりに繋がった。（内容1）
- 共同編集時に端末の操作に時間がかかることがあったことから、子どもの実態を把握したうえで、協働して学ぶ手段について検討する必要がある。（内容4）

#### (2) 担当研究員（3名）

### 3 問題発見・解決能力育成部会

#### (1) 研究成果

- 授業を構築するうえで、子どもが興味をもてるように導入を工夫し、自分事として問題を捉えられるようにすることで、子どもが自分自身で課題を設定し、問題解決に進んで行く姿が見られた。（内容5・6）
- 問題発見・解決の過程を複線化する場合、それぞれのペースで取り組むため、それぞれの結果を元に学びを深めようとすると時間調整が必要となることから、時間にゆとりをもてるよう計画することが必要である。（内容5・6）

#### (2) 担当研究員（3名）

詳細につきましては、南北海道教育センター研究事業

（アドレス <https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2025012100041/>）

を御覧ください。